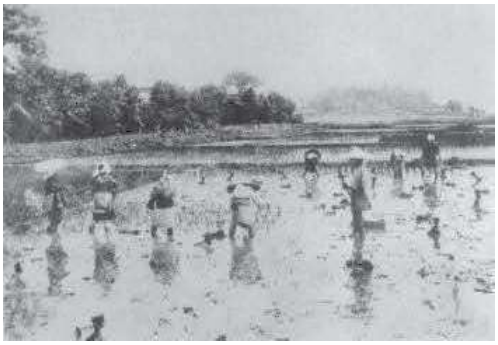
港南区のあゆみ

のどかな農村生活の中で

江戸時代、現在の港南区の中心には武蔵と相模の国境が南北に走り、両側にいくつもの村がありました。その後、明治期の町村制の施行により、永野村、日下村、大岡川村の３村が誕生。これが、現在の港南区のルーツといえます。当時、この地は農村地域であると同時に、近代国家の礎（いしずえ）の役割を担っていたのです。



横浜開港とそれに伴う様々な変化

安政６年（1859 年）横浜開港。横浜港が日本の貿易の窓口として活躍するとともに、村の生活も大きく変化しました。農産物を出荷し、現金を得るという商品経済が、この地に及び始めたのです。米麦雑穀中心の作付から市街地が求める野菜や養蚕の生産に変化し、多角化していきました。日清・日露戦争後は貿易促進や産業の振興のもとで、ジャガイモやパイスケザル（竹で編んだ浅い鉢形のざるで、天びん棒に下げ、土砂や石炭等の運搬に用いられた）などの品種改良、商品改良も活発に行われるようになりました。（写真：明治 36 年ごろの上大岡。あたり一面は田んぼだけののどかな農村風景が広がっていました。）

花の栽培で賑わう港南の村

横浜港を中心に新市街地が拡大するとともに、新しい産業も誕生しました。それは多様な花の栽培です。港南の温暖な気候は、キク、ユリ、シャクヤク、スイセン、キンセンカなどの花栽培に適しており、当時、大岡、笹下、日野あたりは一面花畑だったそうです。カーネーションやバラの温室栽培も行われて出荷先は東京にまで及び、昭和８年には、上大岡に港南花市場も誕生しました。しかし、こうした花産業も戦争とともに衰退していくのです。（写真：昭和初期、当時の笹下地域は花の栽培が盛んでした。その先駆けとなった『薫花園』の花畑です。）

関東大震災、第２次世界大戦

大正 12 年に発生した関東大震災により、港南地域の建物の大部分が失われました。しかしその復興期には、新しい事業への試みも活発に行われました。上大岡では製陶業が始まり、大岡川流域では捺染（なっせん）業が続々と誕生。さらに観光農園としてブドウ園を開園する事業家も現れました。その後、昭和５年には湘南電気鉄道（現：京浜急行電鉄）が上大岡に開通。昭和 11 年には横浜刑務所が完成。第２次世界大戦下ではすべてが戦時体制に塗り替えられ、そして敗戦。しかし、戦後の疲弊の中から、新しい生活が再び始まりました。高度成長、人口急増という大変化が港南の姿を大きく変貌させていったのです。（写真：昔の捺染布干し風景。港南区で作られたスカーフが「ヨコハマスカーフ」として横浜港から輸出されました。）

港南区の誕生

日本の高度経済成長に伴う官舎、社宅、首都圏の住宅地としての市街地化と人口増加により、昭和 44 年に南区から分区して港南区が誕生しました。当時の世帯数は 25,928 戸、人口は 95,545 人でした。

その２年後の昭和 46 年には既設の大岡警察署（現港南警察署）に隣接して港南区総合庁舎、港南保健所、港南消防署、港南公会堂が開設し、港南区の基盤施設が整いました。（写真：昭和 46 年開設時の港南区総合庁舎。６億９千万円の工費と、20 か月の歳月をかけて完成しました。）

街並みの変化

昭和 30 年代から始まった住宅開発は、高度経済成長期に小規模開発から大規模開発へ転換していきました。昭和 38 年から 47 年にかけて横浜市住宅供給公社により野庭団地が造成され、続いて昭和 40～51 年には日本住宅公団により港南台住宅地が誕生しました。以降、大企業や組合により日限山住宅地、丸山台住宅地等が生まれました。かつての緑豊かな里山は次々と団地や住宅地へと変貌していったのです。

湘南電気鉄道の開業後、軍需産業従業員の社宅群として発展した上大岡地区は、戦後も昭和 30 年頃の鎌倉街道の拡幅、昭和 55 年のバスターミナルの設置と駅周辺の整備が続きました。平成に入ると、再開発事業によって大型商業ビルやオフィスタワーが次々にオープンし、市内有数のターミナルとして賑わっています。（写真：港南区誕生時の上大岡。昭和 44 年に開店した７階建ての上大岡センタービル（東光ストア）は低層の商店街が続く上大岡で目立つ存在でした。）

交通網の広がり

昭和 47 年に市営地下鉄が上大岡まで開通し、51 年には港南中央・上永谷へ、60 年には下永谷・舞岡、62 年に戸塚まで延伸しました。また、昭和 48 年には国鉄根岸線が港南台住宅地の開発に合わせて大船まで延長され、港南台駅が開設されました。これにより、上大岡、港南台、上永谷という駅を中心とした３つの商業・生活拠点が誕生しました。　（写真：開業当時の港南台駅。乗降客数はまだ１日 1,300 人そこそこ。）港南区には、「武相国境」や「かまくらみち」「かねさわみち」といった古道が通っていました。自動車の普及により「かねさわみち」は笹下釜利谷街道として、「かまくらみち」は、経路が違いますが、横浜港と南部地域を結ぶ鎌倉街道として整備されました。また、昭和 54 年以降、横浜と横須賀方面を結ぶ自動車専用道路（横浜横須賀道路）が順次開通し、平成 10 年には横浜市の郊外を結ぶ環状２号線が「港南ひまわりトンネル」の完成により開通、また翌平成 11 年には環状３号線が「原乃橋」の架橋により開通しました。

愛あふれる💙ふるさと港南に

（写真：令和３年３月落成　港南公会堂）

昭和 54 年に区の花として「ひまわり・ききょう・あじさい」を制定しました。時代が平成へと変わると、高齢化の進行により地域福祉の充実が求められ、令和５年度現在、区内９か所に地域ケアプラザを整備しています。

令和元年 10 月には区制 50 周年を迎え、地域、各種団体、事業者をはじめとする多くの皆さまに、様々なイベント等を企画していただきました。多くの区民の皆さまにもご参加いただき、区内におけるつながりが一層深まりました。

そして、令和３年３月には、第４期港南ひまわりプラン（港南区地域福祉保健計画）を策定しました。このプランは、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、みんなが協力し、地域をより良くしていくための計画です。プランの目標に向かって、それぞれの立場でできることを連携・協力して進めています。

参考：港南区役所区政推進課ホームページ　協力：港南歴史協議会